スマート農林水産業ワーキンググループ（第３回）

日　時：令和４年３月４日(金)９：５０～１１：２０

出席者：
　金丸　恭文　　フューチャー株式会社代表取締役会長兼社長
　三村　明夫　　日本商工会議所会頭

（農林水産省）
　青山　豊久　　大臣官房技術総括審議官
　天羽　　隆　　林野庁長官
　神谷　　崇　　水産庁長官
（金融庁）
　松田　泰幸　　監督局銀行第二課協同組織金融室長
（総務省）
　戸田　公司　　総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課分析官
（内閣官房）
　三浦　章豪　　新しい資本主義実現本部事務局次長

議　題：１　地域金融機関等の参加促進の取組状況
　　２　農林水産業支援サービス事業体の活動環境の整備の状況
　　３　今後のスマート農林水産業の推進施策の方向

　議題１～３について、農林水産省から、資料１～３に沿って、それぞれ説明。
　意見の概要は、以下のとおり。

○説明のあった農林水産分野のスマート化についての方向性、エレメントは、ほとんど同感で、共有できていることが確認できたことは意義深いと思う。

○このＷＧは、関係する省庁のご協力をお願いしてきているが、今日は、金融庁・総務省に参加いただき、ありがたいと思う。

○地方の金融機関に対して、周知・啓蒙し、スマート農林水産業の分野への参画を促進している中で、手応えは、どうか。
（金融庁から、地域の課題を把握してソリューションを提供することは地域金融機関の重要な役割。農業分野においては、労働力不足や生産性低下などの課

題に対するソリューションの１つとしてスマート技術が有効であるとの認識のもと、地域金融機関は、事業者からニーズを聞き取り、そのニーズに即したマッチングや融資を行うといった地道な取組みを続けており、こうした取組みを広げていく上では、コンソーシアム等への参画も有意義であると考えている。金融庁としても、引き続きこのような取組みを後押ししていく旨回答。）
（農林水産省から、機械の開発に関する一部の事業で、コンソーシアムに地方金融機関が参加すると採択時に加点する仕組みにした結果、半分以上のコンソーシアムに地域金融機関が参画した旨回答。）

○新たなビジネスモデルは、金融庁も地域金融機関に求めているし、融資だけではやっていけないし、新たな産業・プレーヤーがたくさん誕生してこないと、地域は発展しないので、引き続き金融庁のご支援をお願いしたい。

○農業・林業・水産業の３分野で、デジタル技術の活用、デジタル人材の活用・マッチング・育成の話があるが、３分野でバラバラにやるのではなく、共通化できるところは共通化し、個別にやるべきところは個別に、という３分野の連携が大事であり、農水省内でも、官房・技術会議のチームのコンダクター機能の発揮が大事と考えるが、どうか。
（農林水産省から、農研機構に農業情報センターがあり、高度なＡＩ人材をスカウトしており、専業・兼業両方いる。林業・水産業でも、研究機関があるので、それらと農研機構とで連携していくのが近道と考える旨回答。）
（水産庁から、農山漁村では、一体化しているところもあるので、水産だけで独立してやるのではなく、ドローンなど共通化してやれる面もあるし、特殊な魚の見分け方のような水産独自のものもあるが、農研機構などとも連携したい旨回答。）
（林野庁から、デジタル人材を林業だけで囲い込めるとは思っておらず、農業・水産業はもちろん、建設・土木その他異分野とも広く、兼業として連携を図っていきたい旨回答。）

○デジタル人材を獲得しようとするとき、人材のシェアリングが必要。農林水産業の分野に人材を獲得していくため、迫力・夢が重要。そのため魅力を伝えなければならない。やはり、農水省全体としてデジタル人材にアプローチすべき。

○農業は、生産現場実証を全国で、既に１８２地区も進めている点は、非常に意義深い。

○林業と水産業は、点ではなく面で捉えるということで、デジタル戦略拠点を作るとのことであり、非常に重要であるが、作るのは難しいとも思う。一度でき

れば、うまく循環していくだろうが、回り出すまでが大変だと思う。デジタル化を進めていく上でのネックは、経営者の気づき、自覚があるか、また、デジタル人材をどう集めるか、という２点と思うが、漁業関係者、林業関係者は、どのような状況か。
（水産庁から、漁業関係は、平均年齢がかなり高いが、若い人材は、かなりいろいろなことをやっている。高年齢の人材の方々に対して、どうやって横展開していくかという点が課題。このため、拠点づくりでも、全国の漁業基地と言える地域に、水産庁からの出向者も県庁に派遣し、行政からのプッシュにより、２０２３年までにまずは２か所、１０年後の２０３２年には、全国で希望する地域にデジタル戦略拠点を作っていきたいと回答。）
（林野庁から、林業では、経営者層のスマート林業に対する意識・スキルは高くない。一方、川中・川下も見渡せば大規模な事業者が進出してきており、そのようなスキルの向上は一層求められているところ。地域の拠点を作ることについても、現時点で有望な候補地は多くはない。どのように地域に定着させ、運営・拡大していくのかが課題。ＷＧでヒアリングした森林組合など、外部の人材の参入等によりデジタル化の意識づけをしている例がある。このように先進的な地域も出始めてきており、これを面的に展開していきたい旨回答。）
（農林水産省から、農業者は、単独で農地を所有し、それぞれ単独で経営を考えるところが多いが、林業・水産業は、協業で成り立っているところが多いので、面的に、データを活用してやっていくということは、農業よりもやりやすい面がある旨回答。）

○支援サービス事業体が発展することが、スマート化を進める上で良いが、例えば、農業では、支援サービス事業体のリスト公表を４０社についてやっているとのことであるが、拡大してきているのか。支援サービス事業体の支援で農業者をしっかりと支援できている好事例をぜひ情報発信してほしい。また、こうした支援サービス事業体は、大学発ベンチャーというケースもあるのか。昨年のＷＧで、深谷市とこゆ財団の素晴らしい取組で、現場にパイプを持たないサービス事業体を地域に積極的に呼び込んでいた。農水省による農業者と支援サービス事業体のマッチングイベントの更なる開催を検討と資料にあるが、ぜひ進めてほしい。この開催情報は、金融庁、総務省にも共有してほしい。
（農林水産省から、農業支援サービス事業体は重要だが、まだ現場で漸く利用され始めているという段階であり、活動しやすい環境づくりをぜひとも進めるべきと考えている。多くはベンチャー企業で、現場の声を汲み取った、小回りの利くビジネスモデルを工夫している。農水省は、リスト掲載により、さらにプロモートしていきたいし、マッチングもさらに進めていきたい。昨日のＷＥＢイベントも、５００人を超える参加者があり、さらに YouTube でも動画配信を行っている旨回答。）

○地域金融機関自身の生き残り戦略の１つとしても、地域の農林水産業に対する支援は、絶対に必要だと思うが、地域金融機関は、農林水産業への支援をそのようにお考えか。
（金融庁から、地域金融機関においては、地域の事業者の課題に対してしっかりとソリューションを提供することで事業者の付加価値向上や地域の活性化に貢献することとなり、それが、自身の経営基盤の強化にも繋がっていくものであるため、農林水産業が盛んな地域の金融機関においては、そうした観点からも、農林水産事業者への支援に取り組んでいるものと承知している。金融庁としても、引き続き地域金融機関の持続可能なビジネスモデルの構築に向けた取組みを後押ししていく旨回答。）

○農業経営アドバイザーには、５８００人が合格し、そのうち２３００人が民間金融機関の職員とのことであるが、その他は、どのような方なのか。
（農林水産省から、税理士・公認会計士が１２００人、中小企業診断士が１００人、農協職員が１０００人、県の普及指導員が１００人などとなっている旨回答。）

○林業・水産業のデジタル戦略拠点づくりでは、通信基盤が重要な役割を果たすと思うが、総務省は、この取組をどのようにお考えか。何か、連携してやっていけることはあるか。
（総務省から、デジタル戦略拠点については、農林水産省において現在検討中のものと承知している。今後、具体的な相談が寄せられた際には、総務省としても協力していく旨回答。）

○海業は、素晴らしい着眼だと思う。大きな漁港を持つ地域では、商工会議所の活動としても、水産業や漁港を核とした地域の活性化が重要なテーマなので、デジタル水産業戦略拠点の取組も、いっしょになって、やらせていただきたい。
（水産庁から、漁船の減少により生じた空きスペースのある漁港施設をうまく整理し、漁業以外からの収入を確保していくことも大事であり、地方のいろいろな知恵を入れて、漁村の維持に、かなり力を入れていく。その中で、地元経済界とも連携していく旨回答。）

○デジタル水産業戦略拠点づくりでは、地方自治体や漁協などときちんと協力し合って、漁港全体を丸ごとおしゃれにし、単に新鮮な魚を出せるというだけではなく、例えば、キャッシュレスにするとか、「先」を見せるような大掛かりな取組を考えてほしい。いろいろなものを集積した形で、モデルケースのようなものとし、若い人たちが、夢を持って参画しようと思えるようにしてほしい。
（水産庁から、漁港施設の利用で投資をしようとするときの法的な安定性をど

うするかが課題であるため、漁港長期計画や水産基本計画の検討の中で、よく検討していく旨回答。）

○林業の ICT 生産管理システムの標準仕様については、アドバイスしていきたい。

○これまでは、ピンポイントで、点の課題に対して解決策としての政策を打つということが多かったと思うが、今後は、面として捉えて進めていく。

○今季のＷＧの資料では、コンソーシアム、連携、ネットワーク、ハブ、プラットフォーム、といった言葉がたくさん出され、随分変わったなと感じた。

○スマート化・デジタル化では、共通項も多い。したがって、官房・技会の役割は大きい。さらに一層、農・林・水の連携を深め、また、総務省・金融庁の連携・お力添えをお願いしたい。

○長期的な人材育成の在り方、大学や高校の巻き込み方をどうするかは、文部科学省のお力が必要。

○今日は、通信の分野の総務省の方々だったが、自治体との連携も重要であり、旧自治省の皆さんと戦略を共有したり、ご支援をお願いしたい。

○このＷＧがサポーター・コーディネーターとしてやっていきたい。

○中小企業の参画も得て、ネットワーク型で、大きな戦略を描き、みんなで連携して、少しずつ着実に前進し、うまくいかないときは、またみんなで知恵を出し合って、前進していく。そういうＷＧにこれからもしていきたい。

○今季も非常に有意義な議論ができた。農林水産省、総務省・文部科学省・金融庁とで連携して、前季ＷＧの提言を真正面から受け止めて、それぞれの課題に対してしっかりと取り組んでいただいたことに心から感謝する。

○現場の実装化を進めるには、重要なのが、拠点作りだと思う。農業では、いわば１８２地区の拠点が形成され、そこから学んだことを活かし、全国へ広げていく。林業・水産業は、今回、新たな拠点を作るという検討に入った。

○昨年ＷＧを始めるとき、ぜひ農業・林業・水産業を一体で、議論したいと申し上げたが、農業が先陣をきって、現場実証を進め、そうして、林業・水産業と

相互に知見をシェアし、刺激しあい、それぞれの進度に応じて、的確な政策が展開されているということは、このＷＧの大きな成果であり、非常にうれしく思う。

○ぜひ成長戦略にもつないでいっていただきたい。また、新しい資本主義会議への提言も、何らかの形で、実現できるよう、お願いしたい。